

N-6 石巻市牡鹿町大原浜地区 2012年2月10日(金)

報告者名	山口未花子	被調査者生年	1952年(男)
調査者名	山口未花子	被調査者属性	区長
補助調査者	沼田 愛		

大原地区の概要

漁業を専業としている人が2人、その他に水産加工業、運転手、別の地域へ働きに行っている人がいた。専業農家は1、2人いて花を育てている。また、専業ではないが林業をやっている者もいる。昔はもっと漁師が多かったし、マグロも捕れた。今は水産加工業などが多い。牡鹿半島は浜ごとの文化が違うが、大原と小網倉浜・小淵浜・給分浜・泊浜は大原小学校に通う同じひとつの学区になるので、そこの中の交流もある

漁業をやるものは表浜漁協に属していた。学区と同じ小網倉浜・小淵浜・給分浜・泊浜と共同で運営していた。今は宮城漁協の支部となっている。

大原地区の民俗

お正月の春祈禱として1月2日に獅子舞が奉納される。獅子舞や御神木祭・夏祭りは実業団がとりしきる。実業団はもともとは若い、社会に出た男性の集団で、昔は定年があった。高卒程度の年齢から加入し、大体45歳くらいになると実業団をぬけて、60歳くらいになると老人クラブにはいった。いまは若い男性が少なくなったので実業団の定年がなくなり、60歳になると自動的に老人クラブに移る。

お正月には神社でお札をもらい、神棚に飾る。お札は金華山などそれぞれが違う神社からもらってくる。三熊野神社では正月のお札は用意したり配布したりしない。

大原地区の人々は、大永寺の檀家でもある。住職は市役所職員であった。

大原地区の人々は、三熊野神社の氏子である。三熊野神社の神事は給分浜の羽黒神社の神主が勤める。また氏子総代が神事をとりしきる。

お祭りの日程というのは、昔は旧暦のきまった日にやっていた。それが新暦になったのと同時に、休日などに合わせて毎年違う日にやるようになった。大体毎年、氏子総代や実業団(?)で会議をひらき、昔お祭りをしていた旧暦の何日の前後の休日に日にちを設定する。氏子総代は3名おり、その中から総代長を選出する。

大原のお祭りは大きく分けて夏祭りと御神木祭のふたつ。(御神木祭については別項で詳細に報告)

夏祭りは毎年7月第3土曜日が前夜祭、第3日曜日が本祭である。もとは旧暦6月14日・15日に行っていた。三熊野神社で行い、昔は神輿も担いだ。夏祭りにはシンコモチを作る。シンコモチとは、米粉で餅を作り、中にあんこを入れてさらにそれを型にはめて形をつけたもの。

これを各家庭で作るのだが、家庭によって持っている型の形が異なる。山の形やぎざぎざなどの意匠がある。昔はこの作ったもちを他の地区（浜）の親せきの家に届けた。子供がそのおつかいをしたのだが、シンコモチを届けると小遣いをもらえるのでうれしかった。御神木祭のための特別な料理はない。

浜ごとに文化が違うので祭りも違う。例えば獅子舞に使う楽器は増えと太鼓というのは一緒。でも大原は大太鼓、小太鼓、笛だが、それぞれの浜で楽器や人数が違っている。また、自分のところでやらない行事を見に行ったりするのも楽しみだった。たとえば小湊浜ではちゃせごをするがうち（大原）ではやらないので見に行ったりした。

被災後の状況

津波と地震の被害で、浜の人口は半分以下になった。

戸数でいえば、83戸くらいだったのが今は35戸。35戸のうち残った家は16で仮設が19戸である。希望者は全員（大原にある）仮設に入居できた。残った家とはいっても、津波をかぶったものを掃除してつかっているものもある。

水産加工の工業があったが、津波で流され、仕事がなくなり、そのせいで人が減ったというのもある。だが家が流されたのが一番大きな人口減少の要因だろう。

今後は高台移転することになりそうだ。高台移転にはお金が出るが、津波で1階がやられた家の修理には全額が支払われないから、そういう家も（直したらつかえるのに）高台に行くことになると思う。被災直後は小学校や寺が避難所となった。生活センターも津波をかぶったがみんな掃除をして、ボランティアなどの拠点として使っている。区長も平日は大体センターにいて、いろいろな指示をだしている。調査当日も数名がボランティアとして訪れていた。ある女性ボランティアは、夜行の高速バスを利用して東京から訪れている。今回で5回目の訪問である。高速バスは石巻市中心部に着くが、そこからは大原浜から迎えが来るので、その車で生活センターに着いた。ボランティアの内容は区長から頼まれるが、作業中の指示出しは住民からトウリョウ（棟梁か？）と呼ばれている人が行っていた。また、ある女性ボランティアはイギリスの出身であるが、東京などの知人から大原浜にいるこの女性ボランティア宛で衣料品や子供用の遊具などの支援物資を送ってもらうといった活動も行っている。

現区長が区長の職に就いたのは、以前の区長が被災したために引っ越してしまったため、選挙がおこなわれて4月から正式に就任した。

3.11の後、一番初めにこの地域に来てくれたのは船だった。静岡県焼津の船で、海外と貿易をしている大きな船。その船長がこの大原浜出身だった。当日、その船は翌日（3月12日）に出向するために準備をしていた。でも震災があったので、船長がたのみ、社主も了承して、積んでいた航海用の食糧などの荷物にプラスで救援物資を積み込み、2日後（14日）には大原港の沖に到着した。ただ、震災で港が使えないうえに津波で流されたがれきなどで海がうまっていたので、船から荷物を小さなボートに積み替えて、陸まで何度も運んだ。この船長が声をかけ、海外からも船が来てくれた。やっぱりここ（大原）へはまず海から来るんだと思った。

祭りにも変更があった。夏祭りは「復興祈願祭」として7月に実施した。神社は高台にあるので津波はかぶらなかったが、古い建物だったので石段が崩れ、本殿も相当な損傷を受けた。で

もみんなで石段を積み直し本殿も修繕しているところ。ボランティアの発案で、三熊野神社のポストカードを販売し、その利益を修繕に当てると取り組みも行っている。

カキの養殖は一部で再開されている。氏子総代長を務めている A 氏は 6 月にカキの種をつけ、本日収穫してきた。これは、明日行う御神木祭のためである。

台風の影響

津波のあとにきた台風でも被害が出た。津波で山に乗り上げた船が、台風で下ってきて、水門に引っ掛かり大変なことになった。なんとかしてこれを取り去って、もしかして、と思って山のほうを見たらもう一隻下ってきた。

御神木祭

大原浜の大漁祈願、無病息災を祈願する祭事。旧暦では 2 月 10 日に行っていたが、勤め人が増えて平日に開催することが難しくなったので、新暦になった際に建国記念日にやるようになった。今年は 2 月 11 日土曜日朝 11 時開始である。だが、旧暦と新暦では一カ月ほど違うので、昔はこの祭りをやる頃はもっと暖かかった。

祭りの概要としては、御神木である棒に神主が文字を書き入れる神事を行う。御神酒やお初穂を供えるひとがいるので、そのひとたちにはお札を渡す。このお札は神棚に入れておく。ご神木はこの日のために組み立てた山車に括りつけ、太鼓や笛を鳴らしながら町内を練り歩いたあと海岸へ行く。山車をひくのは大原浜のひとたちで、実業団は山車の上に乗って囃子をした。

海岸では御神木を海へ入れる。これを幾つかの網組で奪い合い、最後に御神木を浜にあげたグループがこの年の豊漁を約束されるという。網組、というのは、昔この地域では陸から海に向かって網を仕掛けて魚を捕る漁労が主要な産業だったのだが、網ごとに網元が居て、網元を中心に網組という小集団が形成されていた。ひと組に何人が所属していたのかはわからない。網を張る場所（漁場のことか？）をセ（漢字未確認）といい、「てんぼうのセ」「こでらあみのセ」というように呼んでいた。したがって、網のセごとに組を作っていた。それぞれの集団は、祭りの時には激しくご神木を取り合ってけんかしたものだ。子供心に大人が本気でけんかしているのを見るのは面白かったが、網元制度がなくなり、近頃では木を海に浸けるだけになっていた。また、海に浸けたご神木は昔は大原浜と給分浜の境のあたりにあった大きな木の所に納めていたのだが、後になると神社へ運ばれるようになった。また、山車には榊と松の枝が飾られるが、神事後この枝をみんなで奪い合って持ち帰り、家の神棚に供える。御神木祭のあと、念仏講で生活センターに集まり、数珠を回す。念仏講のメンバーは実業団である。このときにマンダラを壁に掛ける。このマンダラは現存している。

今年度の御神木祭は少し形を変えざるをえなかった。まず、道具を入れていた小屋が津波で流されてしまい、山車を飾る大漁旗などが失われた。ただ、山車は奇跡的にひっかかって残っていた。御神木というのも、最近では毎年同じものを使っていたのだが流されてしまった。それで今年は新しい木を用意した。これはいわくのある木で、山から台風で流されてきた木を海から引き上げて製材して御神木にした。昨年まで使用していた木は、かんなをかけて前年の文字を消して繰り返し使用していた。しかし以前は、毎年新しい木を用意していたのではないかと話者は考えて

いる。

山車は残ったが、震災で人数も減り、大漁旗なども流されたので、今年は山車はやめにした。まず生活センターに作られる祭壇で神主に祈祷文を御神木に書き入れてもらい、その後みんなで神社へ行って祈祷、生活センターでも祝詞を読み、そのあとに念仏講をする、という手順でやることにした。これが終わった後は宴会をする。このために、今日は牡蠣をたくさん獲ってきた。山車はないが、榊と松は生活センターの入り口にくくりつけ、帰りにこれを持って帰ってもらうことにした。